

2024年11月20日

残部2冊

2019年初版、2023年修訂第2刷——
たちまち品切となった大好評書
★在庫まだあります。2冊しかありません！

音楽図書館協議会
Music Library Association of Japan
◆発行

日本の音楽図書館

音楽図書館協議会40年のあゆみ

日本の図書館・ライブラリアンすべてに向けて……



そのとき……何が課題だったのか
いま……何が問題なのか
これから……何が必要とされるのか

図書館、資料館、文書館、アーカイブ、情報センター……
多様化・複雑化する音楽情報について
図書館・ライブラリアンが持つべき役割・知識・技能とは……

半世紀近くにわたり“音楽専門”図書館の立場から
国内外の図書館・研究機関・学界・関連業界・流通機構等との
協働を推進してきた

「音楽図書館協議会」の多彩な活動を詳細に記録

音楽をめぐる日本の図書館と社会状況を再検討し
将来を見通す指針を見出すための必読資料



40
MLAJ

〈販売〉

学術資料出版
大空社出版

メディア IT 整理技術 OPAC 目録 国立情報学研究所
書籍 著作権 司書 インターネット 楽譜
ネットワーク NDC # 電子化 Webcat
逐次刊行物 ff 分類 DVD コレクション 文化庁 データベース
国立国会図書館 配信 NCR 管理 CD-ROM 社会
DDC 保存 雑誌 公開 セミナー LS/1 資料 NDL
オンライン デジタル 書誌学 NACSIS 共有
研修 相互利用 教育 リソース・シェアリング IAML
MARC MLAJ Newsletter

本書の概要

(凡例抜粋)

1. 本書は音楽図書館協議会創立40年記念事業の一環として企画された。1971年に結成された音楽図書館協議会のほぼ40年にわたる記録である。
2. 本書の構成は、序「近代日本の音楽資料と図書館」、I「音楽図書館協議会40年史」、II「音楽図書館協議会の事業」、III「資料編」、および年表からなる。
Iは、音楽図書館協議会の活動記録である。叙述年代は、協議会結成の準備が開始された1970年10月から、現在の組織体制が確定した2013年6月総会までを範囲とした。
IIは協議会の主要事業を詳述した。
「序」は幕末・明治期より1960年代に至るわが国の音楽資料と図書館の略史であり、前史として添えた。
3. 執筆にあたり必要な資料は音楽図書館協議会保存の関係文書・資料を基本としたが、不足も多く加盟館はじめ関係者を煩わせた。また、執筆準備のため、初期の活動を知る関係者にインタビューを実施し、資料、情報を集約した。

日本の音楽図書館

* 目次抄

音楽図書館協議会 40年のあゆみ

音楽図書館協議会 40年史編集委員会 編著
音楽図書館協議会 発行 [2019年3月]

まえがき(協議会誕生四十周年を迎えて)——海老澤敏(初代理事長)

序 近代日本の音楽資料と図書館 音楽図書館協議会設立まで〔40頁〕
西洋音楽の導入と音楽資料/明治期の音楽資料と音楽図書館/大正期の音楽資料と図書館(「南菱音楽図書館」を中心に)/昭和の音楽資料と図書館

I 音楽図書館協議会 40年史〔65頁〕

第1章 音楽図書館協議会の誕生と1970年代の活動
基本構想/初期の活動(所在目録の編纂刊行/会則・組織運営/研修事業/機関誌/国際団体との連携)

第2章 音楽図書館協議会の挑戦 1980年～1990年
西地区活動の展開/図書館サービス相互協力規約の運用開始/公開講座・長期研修会・集中研修/図書館の機械化/目録規則に関する提言/著作権問題/日本近代音楽館の設立への協力/IAML東京会議1988/所在目録/リソース・シェアリング(分担保存)/資料の保存問題

第3章 音楽図書館協議会とIT時代の波 1991年～2000年
IT(情報技術)時代とオンライン目録ネットワークをめぐる音楽図書館協議会の動き/CD-ROM版書誌データベース/オンライン目録ネットワーク時代/音楽図書館業務統合システム(LS/1)の開発/音楽目録クリニック ■新たな活動(館長懇談会/音楽雑誌の共同・分担保存と学術雑誌部会/専門・公共図書館部会/20周年記念論文集『音楽情報と図書館』刊行/研修事業/著作権をめぐる動きとその対応/学界との協働)

第4章 新たな連携をめざして 2001年～
21世紀の音楽図書館協議会(専門委員会/研究セミナー/創立30周年記念事業/新冠町レ・コード館との提携事業/『日本の音楽コレクション』刊行/学界との協働(「日本の音楽資料」のデータベース化のための調査研究)) ■変動する環境: 図書館と音楽資料をめぐる(インターネット時代の図書館像/図書館法改正と司書養成科目/「文化芸術振興基本法」の成立と文化庁「音楽情報・資料の保存及び活用に関する調査研究」/国立国会図書館「音楽映像資料課」の創設と「音楽資料・情報担当者セミナー」)

II 音楽図書館協議会の事業〔50頁〕

第1章 所在目録の刊行と相互協力
所在目録と波及効果/逐次刊行物所在目録/作曲家全集・楽譜叢書所在目録/リソース・シェアリング、分担収集・保存の模索/図書館相互利用サービス

第2章 音楽図書館協議会の研修事業
音楽図書館員の養成/音楽図書館協議会の研修(音楽資料の基礎知識・新人スタッフのため・日本の音楽資料に関する研修: 音楽書誌学/集中研修/長期研修会/整理技術研修/著作権について/視聴覚資料(メディア)に関する研修) ■国立国会図書館による音楽ライブラリアン育成の動き

第3章 音楽資料の組織化
音楽図書館研究グループ編「音楽図書・楽譜分類表」1973/「日本目録規則1987年版」への提言/分類専門委員会「MLAJ音楽分類表(試案)」(国際的な分類法標準化に向けて)/学術情報システムと音楽資料

まとめにかえて —— 松下 鈞(元事務局長)

III 資料編〔55頁〕

会則/図書館サービス相互協力規約/理事長・理事長館一覧/組織/加盟館一覧/刊行物一覧/MLAJ Newsletter 目次総覧

音楽図書館協議会年表(1970年10月～2013年6月)(50頁)
* 協議会事項と関連事項(図書館・資料)〈音楽・社会〉を別建てにまとめた。変動する日本・世界と音楽周辺情報を凝縮した労作。

主要参考文献/あとがき/事項索引

日本の図書館・ライブラリアンすべてに向けて……



発行◆音楽図書館協議会
(2019.3 初版第1刷/2023.6 修訂第2刷)
ISBN978-4-900266-09-4
菊判(151×224^{mm})・300頁 上製・カバー装
定価(本体6,200円+税)

■ 1970年代から現在の音楽周辺情報を知る恰好の書

[販売]

学術資料出版

大空社出版

おおぞらしゃしゅっぱん

資料に命いのちを
作品に心こころを
形にして伝える。

www.ozorasha.co.jp

eigyo@ozorasha.co.jp

東京都東村山市秋津町 5-24-13-101
(〒189-0001)

TEL:042-306-3383 / FAX:042-306-3384